

みんなで ともに 乗り越えよう

浪江町を復興していくためには、町民の生活再建・健康管理、インフラの復旧、将来に向けたまちづくり、賠償問題、絆の維持など多くの課題があります。
 その中で、町がどのような取り組みをしているのかをお知らせします。

避難指示解除に関する有識者検証委員会（第1回）を開催しました

町は、避難指示解除に向けて、除染やインフラ復旧などの進捗を専門家の視点から客観的に検証・評価し、必要な措置について提言をいただくため、「避難指示解除に関する有識者検証委員会」を開催しています。

第1回委員会（9月30日開催）では、委嘱状交付の後、委員長および副委員長を選出し、委員会の進め方などについて話し合いを行いました。

【有識者の紹介】

- 委員長 吉岡正彦氏（ふくしま自治研修センター総括支援アドバイザー兼教授）
- 副委員長 間野博氏（福島大学つくしまふくしま未来支援センター特任研究員、
県立広島大学名誉教授）
- 委員 児玉龍彦氏（東京大学アイソトープ総合センター長）
秋光信佳氏（東京大学アイソトープ総合センター教授）
床次眞司氏（弘前大学被ばく医療総合研究所教授）



吉岡正彦氏 間野博氏 児玉龍彦氏 秋光信佳氏 床次眞司氏



町長より委嘱状の交付



会議の様子

【今後の予定】

回数	内容等
第2回 (10月下旬)	検証・評価① 【除染】
第3回 (11月下旬)	検証・評価② 【インフラ復旧】
第4回 (12月中旬)	検証・評価③ 【生活環境整備】
第5回 (1月下旬)	検証・評価④ 【現地視察】
第6回 (3月上旬)	検証結果とりまとめ

※詳しい日程は決まり次第、浪江町ホームページなどに掲載します。

☎復興推進課復興企画係 TEL 0243(62)4731

津波被災施設（請戸小学校・マリンパークなみえ）および 地区の3D測量を実施しています

町は、東日本大震災や原子力発電所事故で、浪江町民が置かれた過酷な状況が二度とくり返されないようとの思いを込め、浪江町民の被災・避難の経験を活かし、東日本大震災の状況を後世に伝える取組みの一つとして、津波の被害を受けた施設と地区のデータ化を行っています。

記録したデータの公開・活用の具体的な方法は、検討を進めていきます。

☎復興推進課復興企画係
TEL 0243(62)4731



ドローンによる請戸地区の測量

原発事故による損害賠償でお困りの方へ ADRセンターが無料で和解仲介します

東京電力の提示金額に納得できない方など、どなたでも当センターをご利用頂けます。現在の申立て以外の損害についても、申立て可能です。また、裁判よりも手続が簡便かつ無料※1で、ご本人様お一人でも申立てができます。証拠書類がない場合でも申立て可能であり、仲介手続きの中で、センターの調査官が不明な点を丁寧にお伺いします。

手続きが終了している14,895件のうち、8割強である12,444件※2が和解成立に至っています。

※1 送料等の実費は発生します。 ※2 平成27年9月末現在の件数です。

最近の和解事例

避難指示解除準備区域（浪江町）で飲食店を営んでいたが、原発事故による避難に伴い、避難先で新たに店舗を賃借し、焼肉店を始めた申立人について、新旧店舗の地理的状況及び規模、事業変更の必要性、新旧事業用設備・備品の状況等を総合的に考慮して、新店舗における備品・機器リース料の一部が賠償された事例（和解事例954）。

※和解事例は、あくまで申立人の個別事情に基づいて和解した例であり、一般的に適用される基準ではありません。

お問い合わせ先 原子力損害賠償紛争解決センター 無料電話 0120(377)155

ここからは広告です。

エコドライブ、美しい環境とモビリティの楽しさを次世代へ。

双葉ホンダモーターズです。本宮店・須賀川森宿店でお待ちしております。

さらに装備が充実しました!

FIT HYBRID NEW



Honda Cars 福島県央 本宮店
〒969-1165 本宮市本宮字中台21 営業時間 8:30~18:30 毎週火曜定休
TEL0243-24-8188

Honda Cars 福島県央 須賀川森宿店
〒962-0001 須賀川市森宿字日向29-12 営業時間 8:30~18:30 毎週火曜定休
TEL0248-76-3115

町の農業・水産業 再生に向けて

企業組合津島が菜種の栽培を行いました

稲の収穫が行われました



菜種の播種作業を行った企業組合津島の皆さん

企業組合津島（震災前に津島地区で直売所等を運営）は9月25日、同組合員が所有する幾世橋地区の農地で、菜種の播種作業を行いました。
同組合は、先行して除染が完了した10aの農地で景観作物としての菜種を栽培します。無事に成長すれば、来年春には一面の菜の花が広がるでしょう。



播種作業の様子

10月13日、酒田地区で稲の収穫が行われました。この日は、営農再開を支援する関係省庁、機関なども応援に駆けつけ、黄色に実った稲を刈り取り、収穫の喜びを分かち合いました。
生産者で酒田農事復興組合の半谷好啓さんは、「地元のお米が食べたいという声に、今年収穫したお米で応えることができたら」と米作りにかける思いを語り、同組合の松本清人さんは、「稲穂もきれいで、お米の出来は最高だと思おう」と稲の生育



コンバインに乗る馬場町長（右）と松本さん（左）



稲刈りに参加した馬場町長、本間副町長、町議会、県議会、酒田農事復興組合、JAふたば、農業・農地を考える会、環境省、東北農政局、復興庁、原子力災害現地対策本部、福島県の皆様

状況を笑顔で語りました。
酒田地区の米の作付けは昨年度から再開し、昨年収穫された米は、全て放射性物質基準値を大幅に下回り、東京大学などの食堂で提供されました。
今年も、放射性物質検査を行いつつながら、農協や東大生協など、ご協力いただける機関と

●酒田のうどん・北幾世橋のネギを添えて

酒田地区で収穫された小麦がうどんに加工され、北幾世橋地区で収穫されたネギとともに、10月8日、酒田農事復興組合員に提供されました。

うどんは、酒田農事復興組合が震災後初めて栽培した小麦から、合資会社旭屋などの協力により作られたものです。

ネギは、「営農再開を目指す会」が北幾世橋地区で栽培しているもので、この試食会のほか、10月10日に行われた「ふたばワールド2015inならは」でも提供されました。

小麦とネギは、共に放射性物質検査により安全が確認されています。

うどんの試食を行った組合員からは「おいしいなあ」と笑顔がこぼれました。浪江で育った食べ物が再び食卓を飾る日に、また一歩近づくことができました。



うどん試食会の様子

酒田産のうどんと北幾世橋産のネギ

ニホンザルの生育状況調査をしています

避難指示により町民活動が休止した結果、町内でニホンザル
もに、震災後の町内で初となるお米の販売を目指しています。

による被害が報告されています。これを受けて福島県は、電波発信機の装着などによるニホンザルの生育状況調査を、浪江町などの避難指示区域の一部で開始しました。調査結果は、今後のニホンザルの被害防止対策に活用される予定です。